

関心と建設的な共有のおかげで、グレースの気分は上向いていきました。特に、仲間のメンバーが近い将来その計画を手伝おうと言ってくれた時に、グループの団結は強くなり、そしてグループは次の活動として、「屋内の鉢植え植物のクリニック」を開くことにしました。

ここに挙げた経験のすべてが実践者の専門知識になっていきます。ご覧のように、こういう経験のすべてが実践者の専門知識に貢献します。経験的エビデンスは長い時間をかけて作り出され、経験を通して得られます。経験は次のようなものを含みます。実践者が知識ベースに統合した実証的・事例的エビデンス、実践者の教育、実践者の訓練、実践者の園芸療法実践年数、実践者の人生経験などです。

セラピストはみな、それぞれの人生経験を園芸療法の実践に取り入れます。ここに私をよりよい園芸療法士にしてくれたと感じる人生経験をいくつか挙げてみました。



配偶者として：受容、妥協、忍耐

親として：育むこと、無条件の肯定的な見方

教師として：個人のニーズとグループの能力のバランスを取ること必要

カウンセラーとして：共感的理解と調和を教える

ナチュラリストとして：自然を愛する心と園芸療法の理論的基礎の理解を育む

ガーデナーとして：植物を扱う仕事をすることの癒しの力についての直に得た、経験的知識を提供する

経験的エビデンスをまとめます。

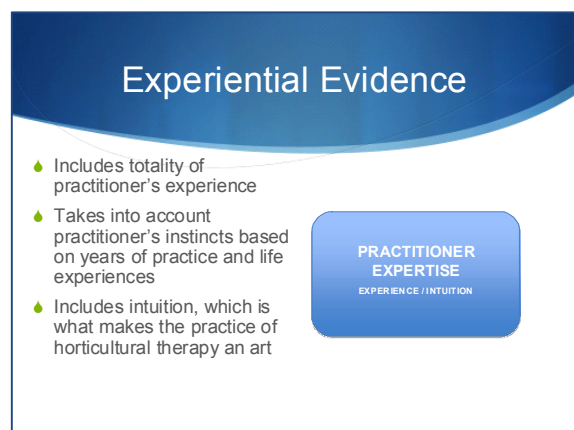
● 経験的エビデンスはたくさんの要素が組み合わさって成り立っています

● 実践者の経験全体を含む

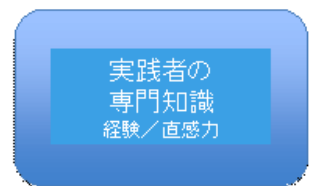
● 長年の実践と人生経験に基づく実践者の直感力を考慮に入れる

● 園芸療法の実践を人文科学にしている洞察を含む

経験的エビデンスはいくつかの情報源から得られる実践者の経験全体である。ひとの直感力、教育、新たなスキルを得るための特定のトレーニング、



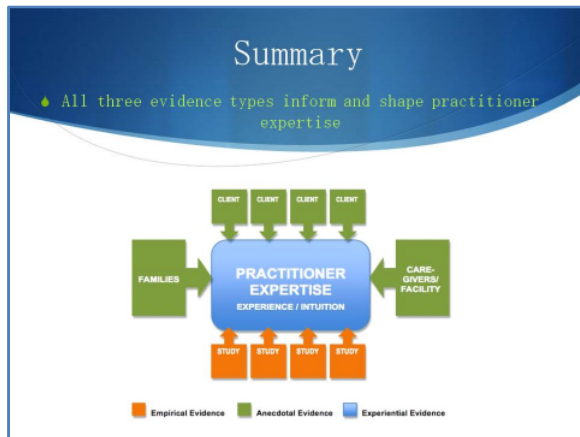
雇用の機会、地域の関わり、ボランティアの参加—これら全



てが治療セッションの過程で、また個々の対象者との関わり合いの間の賢明な意思決定能力に情報を与え、形を作り、強化することができます。経験的エビデンスの例として、例えば、音楽や芸術、文学、他の分野における経歴は、個々の対象者に関わり、教訓を明らかにする比較を引き出し、あるいは単に対象者の示す感情の多様さをより理解

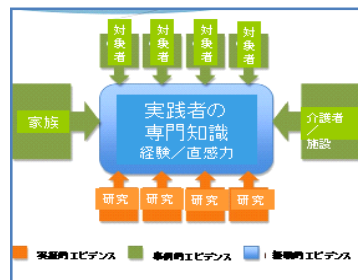
する方法を与えてくれます。

実証的エビデンスや事例的エビデンスが合わさって、実践者の人生経験や直感力は知識を知恵に、自然科学を人文科学に変えることのできる大切な成分となる。

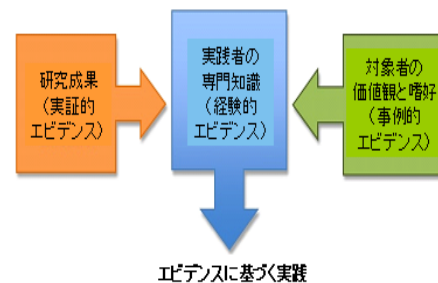
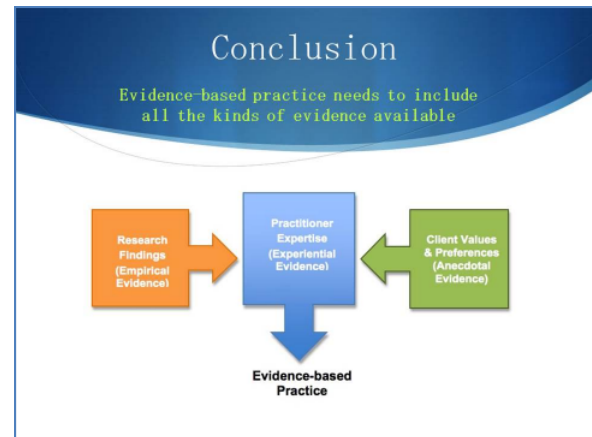


では、全体をまとめたいと思います。3つのエビデンスのすべてが実践者の専門知識をかたちづくり、情報を提供するというモデル化しました。

このモデルは対象者、家族、介護者からの事例的情報と科学的研究から得られた実証的データを取り入れて、実践者が専門知識や技術、能力を獲得していくかを示しています。初めにお話ししたように、実証的エビデンスはとても重要ですが、それは私たちの分野と対象者に関する知識を得るひとつの手段に過ぎません。この図はすべての種類のエビデンス、つまり、実証的、事例的、経験的エビデンスが合わさって、どのようにして実践者の専門的知識が作られるのかを示しています。

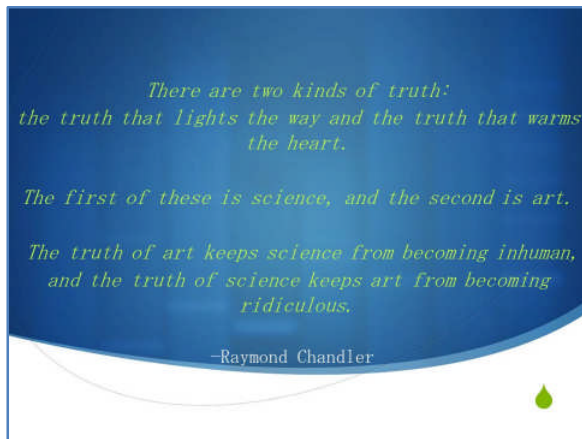


結論です。



調査研究からの実証的エビデンスがなければ、実践者は園芸療法に関する最新の成果を得ることができません。事例的エビデンスがなければ、実践者は対象者と彼らの個々のニーズを理解することができません。実証的エビデンスと事例的エビデンスの両方が経験的エビデンスと合わさって、実践者の専門知識に情報を与え、本当の意味での「エビデンスに基づく実践」ということになるのです。

改めて Raymond Chandler の引用を見てみると、園芸療法の普及に尽力している私たちすべてにとって、双方の努力と貢献を十分理解し、認めることが大切だということです。私たちは人々を癒し、回復させるこの大切な、そして強力な道の光であり、心でもあるのです。



2種類の真実がある：

道を照らす真実とところを暖かくする真実
前者が自然科学であり、後者が人文科学である。

人文科学の真実は自然科学が非人間的にならない
ようにし、自然科学の真実は人文科学がばかげた
ものにならないようにする。

-レイモンド・チャンドラー